

# 地質ニュース

昭和 47 年 10 月

第 218 号

1972

## 特 集 九 州 路 を ゆ く

- 九州にあすの火をともしよう～原子力発電所第1号建設中・高原 井 保 明・1  
西 彼 杵……………服 部 仁・8
- 中九州の火山地帯 別府-九重-阿蘇……………小 野 晃 司・14
- 大岳地熱帯開発の歴史と熱水変質について……………林 正 雄・30
- 東 南 九 州 ～豊後路から日向路へ……………木 野 義 人・44
- 書 庫 か ら の 便 り ⑩……………資 料 室・60
- 学 会 掲 示 板……………7
- 地 学 と 切 手……………P. Q.・43

## 編 集 地 質 調 査 所

### 阿 蘇 の 火 口

#### 表 紙 の 写 真

「白煙をあげる火口」というのは日本語としてはごく普通の表現であるが この場合の煙の内容は 水蒸気が凝結した水滴である。英語の smokeは同様の意味に使われることもないわけではないが 固体粒子を含む“本来”の煙の意味が強く 固体粒子がなければ steam である(実際は凝結して水滴となつてはじめて“白煙”となるので当然のことながら水蒸気だけではみえない)。静穏時の白煙でなく 黒煙や灰色の煙となつたときは固体粒子-火山灰-を含んだ狭義の煙(smoke)である。阿蘇地方ではこの灰をヨナというが 近頃はヨナの降ることもめつたにないようである。写真は東側(ロープウェイ火口東駅の南方)から見下した中岳活動火口。

(小野晃司)

発 行 株式会社 実業公報社